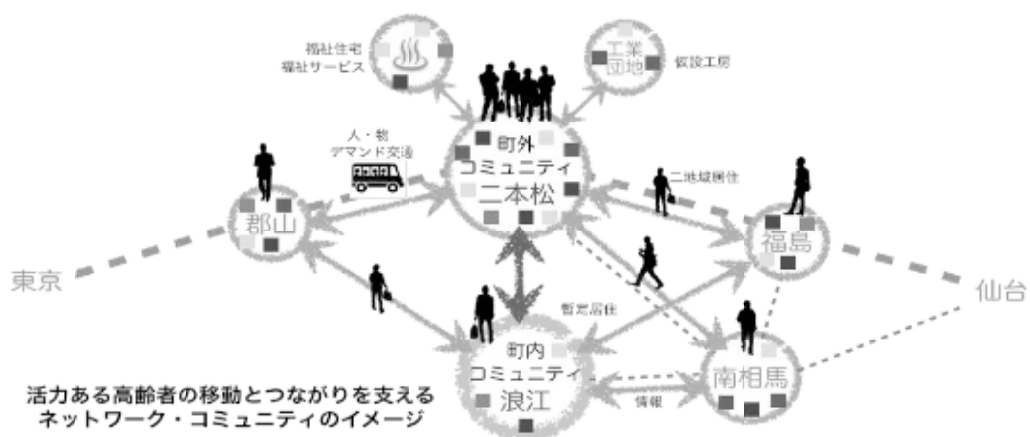


「広域避難者による多居住・分散型 ネットワーク・コミュニティの形成」

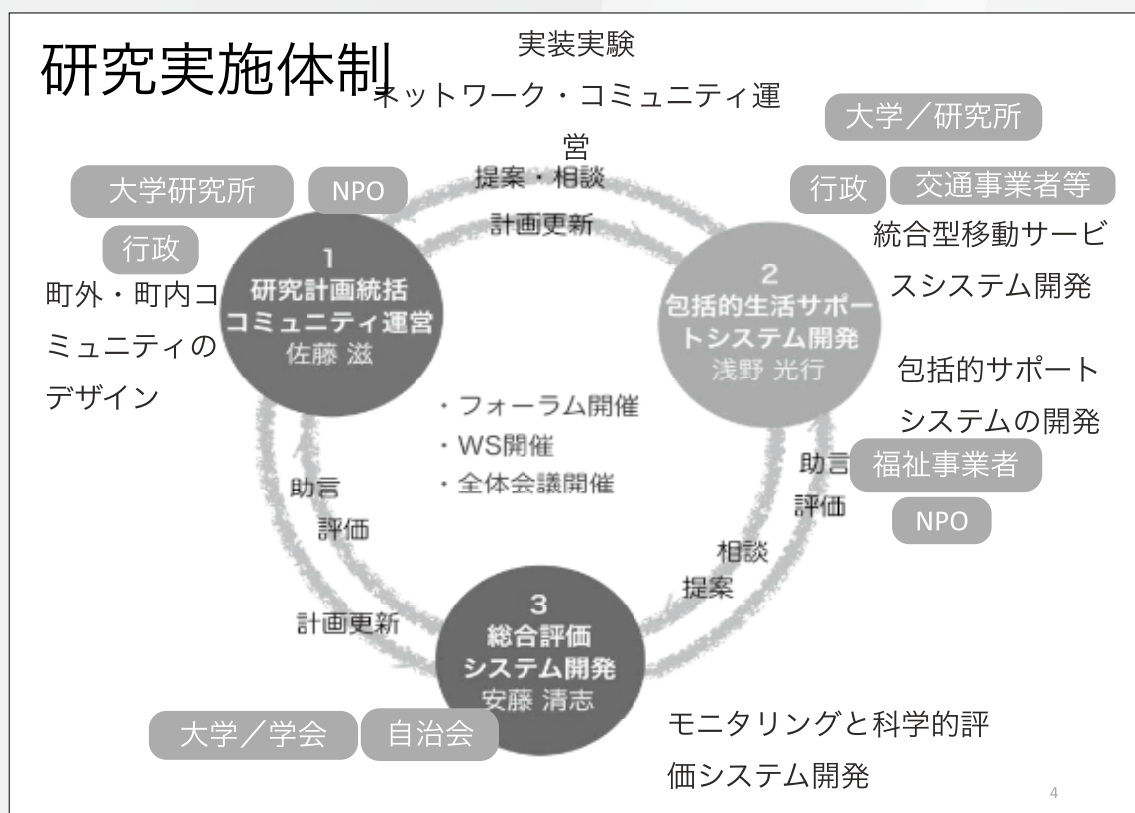


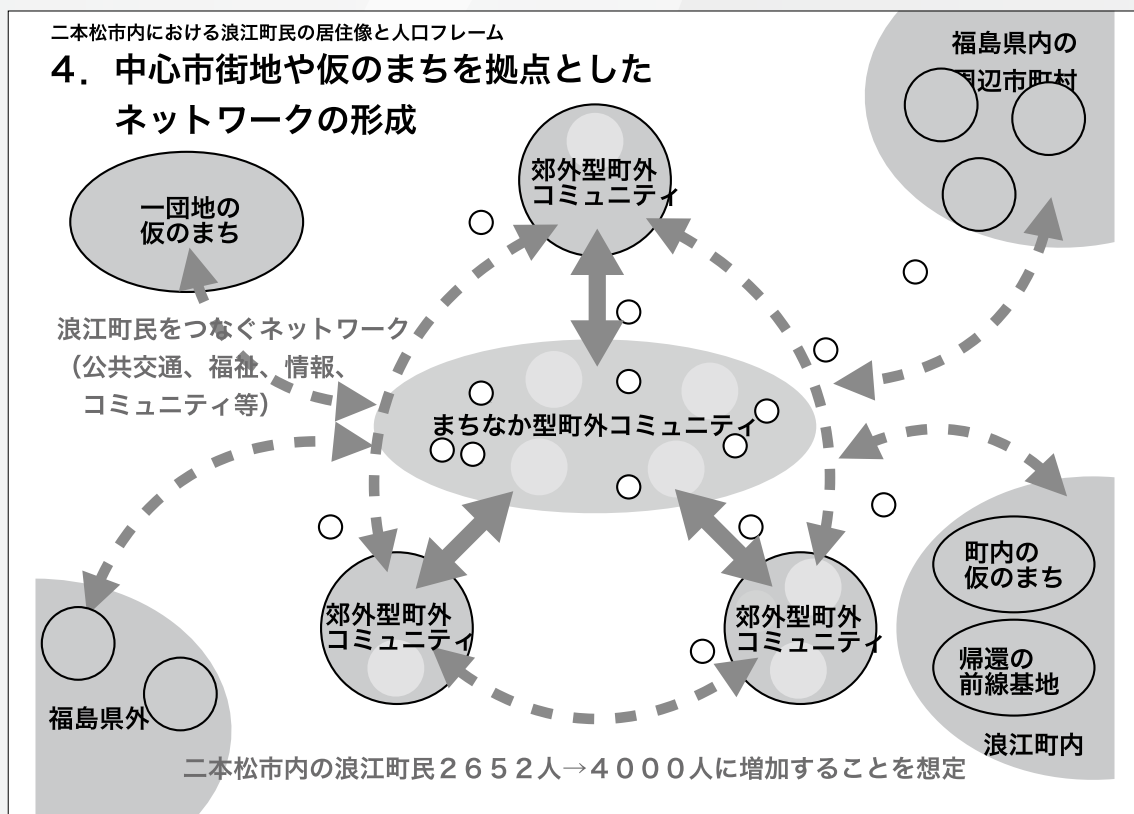
研究の仮説：ネットワーク・コミュニティ





自治体、市民組織と実践的な共同研究を行い、大学と社会、市民と専門家が連携するまちづくりの方法の確立に取り組んでいる。著書に、『東日本大震災からの復興まちづくり』（編著、大月書店、2011年12月）「まちづくり市民事業」（編著、学芸出版、2011年3月）、「大震災に備える1, 2」（編著、日本建築学会）など。現在、放送大学客員教授、これまでに日本建築学会会長、自治体学会代表運営委員など。

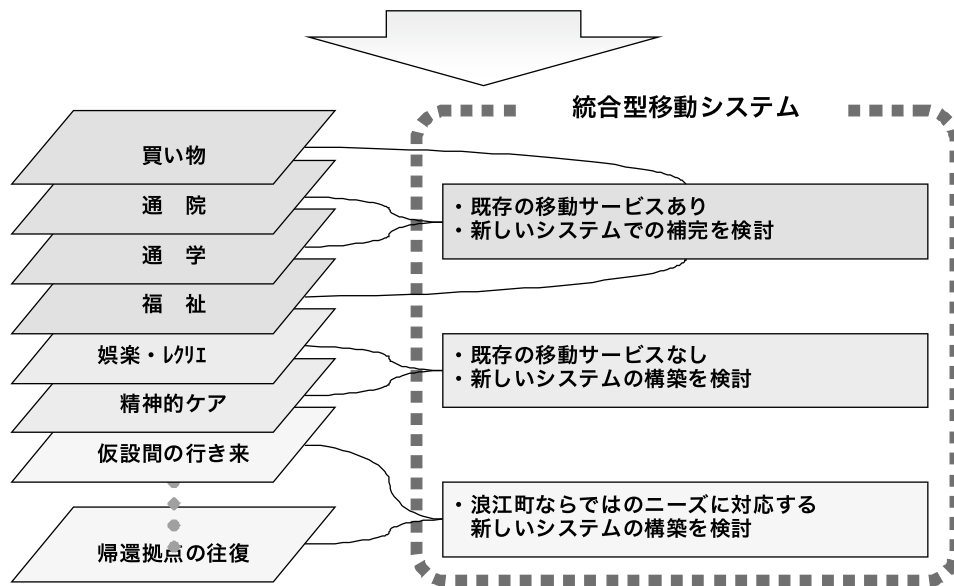




ワークショップの様子

【統合型移動システムの概念】

避難生活における移動に関する現状調査
(ヒアリング調査・アンケート調査・ワークショップ)



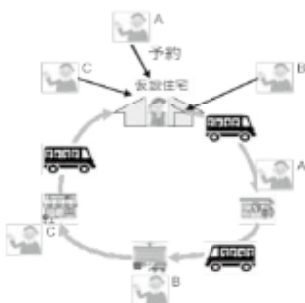
【統合型移動システムの全体イメージ】

統合型移動システム

なかよし号（生活支援）
みらい号（帰還支援）
えがお号（イベント・交流）

なかよし号（生活支援）

- ・日常生活の移動を支援
- ・既存システムの補完
- ・仮設住宅単位から運行を開始



みらい号（帰還支援）

- ・浪江町と仮設住宅等の往来を支援
- ・旧来のコミュニティの維持にも役立つ



えがお号（イベント・交流）

- ・移動そのものを楽しむ
- ・旧来のコミュニティの維持、精神的ケアが目的

